

## 令和3年度 前期始業式挨拶

皆さん、おはようございます。

令和3年度が始まりました。後期終業式では1年間を振り返り、「君たちの良かったところ」と、「さらに自分を成長させるために今後やって欲しいこと」を話しました。新年度あらたな気持ちで、また学校生活に取り組んで欲しいと思います。

さて、「新型コロナウイルス」の大阪府の感染状況ですが、第4波を想起するほどかなり多くなっております。感染拡大防止策については、担任の先生や教科担当の先生の指示にしっかりと従ってください。この「新型コロナウイルス」の影響は、昨年度から想像以上のものがありますが、我々は皆、多かれ少なかれ「不安」な気持ちを抱いていると思います。人は「不安」になれば「不満」がたまります。そして「不満」がたまれば、その「不満」を誰かにぶつけてしまう、ということもあるのではないのでしょうか。

大阪府教育センター人権教育研究室が行った、令和2年度の「学校生活と人権に関するアンケート」によると、「高校入学以来日常生活の中で他人に傷つけられるような行為や態度をされたことがありますか」という質問に対して、実に89.2%、9割近くの生徒が「ある」と答えています。そして、その内容については、

「面と向かったの『ののしり』や『いやみ』」「うわさ、かげ口、書きこみ」「何気ない発言など」が70%を占めています。つまり「人を傷つけてしまう行為」の7割は「言葉」によるものです。

「言葉」によって傷ついたら、人はまた「不安」になり、「不満」がたまります。そしてその「不満」をまた違う誰かにぶつけてしまう可能性もあります。

「言葉」は、日本のことわざの「売り言葉に買い言葉」にも表れているように、使い方によっては「刃（やいば）」になり、「攻撃」の応酬になってしまう可能性があります。

しかし他方、「言葉」は使い方によっては「薬」になる可能性もあります。言われた言葉で、安心や落ち着きを取り戻したり、やる気がでたりすることも経験した生徒は多いでしょう。韓国のことわざに「가 말이 고약하고 오 말이 꿀맛(カヌン マリ コワヤ オヌン マリ コップタ)」というものがあります。これは、「行く言葉が美しければ、来る言葉も美しい」という意味です。すなわち「言葉」は使い方によって「刃（やいば）」にも「薬」にもなるということです。

できれば「刃（やいば）」になる「言葉」より「薬」になる「言葉」を使いたいものです。後期終業式では、面接練習で「日頃から心がけていることは何か」の質問に対して「自分がされて嫌なことは他人にしない」と答えた生徒の話をしましたが、彼は日頃から他人にどんな言葉をかけよう的意识しているのか。聞いてみたかったです。

「言葉」一つで、みんなが嫌な気持ちになったり、嬉しくなったり、また、やる気がなくなったり、やる気がでたり、します。「言葉」の力には、想像以上に大きいものがあります。教職員も生徒も良き「言葉」の力で、引き続き、雰囲気の良い、安全安心な東総（ひがそう）の学校生活を送れることを期待しています。

以上